

令和2年度 佐賀県農業大学校 評価表(実績)

資料 3

|      |   |  |
|------|---|--|
| 教育目標 | 〇 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成<br>〇 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成      | 〇達成度<br>A:十分達成できている(100%以上)<br>B:概ね達成できている(100%未満~80%以上)<br>C:やや不十分である(80%未満~60%以上)<br>D:不十分である(60%未満) |
| 重点目標 | 1.優秀な入学者の確保<br>2.高い技術力や経営力の習得<br>3.全ての学生の進路決定<br>4.農業者研修の充実 |  |

| 目標             | 評価項目 | 令和2年度目標   | 目標達成のための方策  | 具体的取組及び結果  | 達成度 | 次年度の課題と改善策   | 評価コメント |
|----------------|------|-----------|---|--|-----|--|--------|
| I<br>優秀な入学者の確保 | 受験者数 | ・受験者30名以上 | 〇農大の情報の発信<br>ホームページを各専攻月1回以上更新<br>講義・実習等の週1回以上の写真撮影、ホームページ掲載<br>校内でホームページ操作研修会の開催<br>広報紙「緑旗」の配布、新聞等広報媒体への情報提供   | 〇受験者数は、37名であった。<br>(本科33名・専科3名・編入1名)<br>※推薦・一般(1次募集)の受験者数<br>・ホームページを概ね毎月1回更新した(11回)。<br>・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施した。<br>・広報紙「緑旗」の配布(年2回)、佐賀県広報誌、新聞等広報媒体への情報提供を行った。  | A   | 〇本科受験者33名中、農業系高校出身者は15名で、農業系以外の出身者が多かった(R2 30名中農業系出身者は16名)。<br><br>〇引き続き、農業を志す多くの受験者を確保できるよう、高校との連携及び広報活動に力を入れる。 |        |
|                |      |           | 〇各機関・団体への周知<br>全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙に学生募集の掲載依頼<br>県広報紙への掲載<br>全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付<br>農大の募集説明会への参加 10校以上<br>高校への進路ガイダンスへの参加 10回以上<br>地区別懇談会や同窓会組織を活用した学生募集推進 | ・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼した。<br>・各普及センターの広報紙に掲載を依頼した。<br>・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取りを実施した。<br>・高校向けの募集説明会を開催した(6/17 12校参加)。<br><br>・農業系高校を中心にガイダンスに参加した(3回、新型コロナウイルス対応で3校中止)。<br>・PR用クリアファイルをガイダンスやオープンキャンパスで配布した。<br><br>・地区別懇談会は中止した(新型コロナウイルス対応)。 |     |  |        |
|                |      |           | 〇農業系高校等との連携強化<br>農業系高校連絡会議の開催<br>農大への現地研修の受け入れ及び農業系高校への出前授業への積極的参加10回以上<br>高校生の農大施設訪問3回<br>未来さが農業塾生徒の農大訪問等の積極的<br>情報提供                                      | ・農業系高等学校長との連絡協議会は中止した(新型コロナウイルス対応)。<br>・農業系高校を中心に募集説明会を開催した(6/17)。<br>・農業系高校へ出張講義を実施。(延べ8回)<br><br>・農校生の農大施設訪問を受け入れた(2回)。<br><br>・未来さが農業塾の入塾式、塾生徒と農大生との交流は中止となった。  |     |  |        |

| 目標                     | 評価項目          | 令和2年度目標                | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果   | 達成度 | 次年度の課題と改善策   | 評価コメント |
|------------------------|---------------|------------------------|--|---|-----|--|--------|
| I<br>優秀な<br>入学者の<br>確保 | オープンキャンパスの参加数 | ・オープンキャンパス参加者40名以上     | <p>○農業系高校等との連携強化<br/>農業系高校連絡会議の開催 2回<br/>オープンキャンパスの開催 3回<br/>在校生との交流会の実施</p> <p>○農大の情報の提供<br/>ホームページを各専攻月1回以上更新<br/>講義・実習等の週1回以上の写真撮影</p> <p>○各機関・団体への周知<br/>全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼<br/>県広報紙への掲載、広報媒体を活用したPR<br/>全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付</p> | <p>○オープンキャンパスの参加者数は、38名であった。<br/>(保護者30名を含めると、総数68名)</p> <p>・農業系高等学校長との連絡協議会は中止した(新型コロナ対応)。<br/>・農業系高校を中心に募集説明会を開催した(6/17)。<br/>・オープンキャンパスを3回開催した(7/5、7/29、8/23)。<br/>・オープンキャンパス時に在校生との交流を実施した。</p> <p>・ホームページを概ね毎月1回更新した(11回)。<br/>・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施した。</p> <p>・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼した。<br/>・県広報誌に募集案内を掲載した。</p> <p>・高校訪問を6月18日～7月3日に実施した。</p> | B   | <p>○オープンキャンパスの参加者38名のうち、高校2年生以下は1名だった。</p> <p>○引き続き、早い段階から農大に興味を持ってもらえるように、オープンキャンパスへの参加を幅広く呼びかける。</p> |        |
|                        | ・専修化の円滑化      | ・専修化カリキュラムの構築(R2年度入学生) | ・大学、関係機関とカリキュラムの調整・見直し   | <p>・令和3年度からのカリキュラム候補(スマート農業関係、知的財産関係など)を検討した。</p> <p>・日本学生支援機構奨学金の円滑な申請を支援した(1年生7名、2年生6名 受給)。</p>   | A   | ○引き続き、カリキュラムの調整・見直し、奨学金の円滑な申請支援を行う。  |        |

| 目標                | 評価項目         | 令和2年度目標  | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果   | 達成度 | 次年度の課題と改善策  | 評価コメント |
|-------------------|--------------|--|--|---|-----|---|--------|
| 2<br>高い技術力や経営力の習得 | 高い技術力や経営力の習得 | <b>【水田農業】</b><br>○栽培管理技術の習得<br>・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得<br>・スマート水田農業に関する知識の習得<br><br>到達した学生の割合100% | ・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認<br>・学生による栽培計画書の作成指導<br><br>・研究機関等との連携により最新の栽培技術の習得 | ・実習では栽培日誌を記帳させ、栽培日誌やレポートを定期的に提出させた。また小テストで理解度を確認した。<br>・栽培暦や防除暦を作成させ、実習の中で米麦大豆の播種から収穫・乾燥調製までの管理技術を習得させた。<br><br>・現地講義を活用した11月11日にスマート水田農業の現地実証を学んだ。また、無人トラクタでの麦播種作業が体験でき、スマート水田農業に関する知識の習得ができた。<br>（九州沖縄農業研究センターでの講義。）<br>（アグリベースにいやまでの作業見学と作業体験等）<br><br>・ドローンを使った水稻防除の実演と試操体験。<br>(8/23)<br>農大で、ドローンの免許取得が出来た(6名) | A   | ○本年度末にGPS機能付き機械を導入するので、校内での更なるスマート農業学習の向上を図る。<br><br>○スマート水田農業機械を使った総合的な実習の充実を図る。 |        |
|                   |              | ○農業機械の基本操作と維持管理の習得<br><br>・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100%<br><br>到達した学生の割合100%                            | ・農業機械の操作指導<br>・作物栽培と連動した機械作業の習得指導<br><br>・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催    | ・機械の基本操作及び圃場作業のマニュアル書を作成させ、農業機械の操作を習得させた。<br><br>・一連の機械作業を全学生が操作できるようになった。<br><br>・大型特殊(農耕車)免許および、けん引(農耕車)フォークリフト免許の全員取得。   | A   |   |        |

| 目標                | 評価項目          | 令和2年度目標  | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果   | 達成度 | 次年度の課題と改善策                                      | 評価コメント |
|-------------------|---------------|--|--|---|-----|---|--------|
| 2<br>高い技術力や経営力の習得 | ・高い技術力や経営力の習得 | <b>【露地野菜】</b><br>○栽培管理技術の習得<br>・播種から収穫までの栽培管理技術の習得<br><br>到達した学生の割合 100%以上 | ・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認<br>・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導<br><br>・農業技術検定(3級、2級) | ・実習では栽培日誌に毎日の栽培管理と観察記録を記帳させ提出させた。<br>・プロジェクト品目については栽培計画書と栽培暦を作成させ、播種・育苗から収穫調整までの管理作業を行い、技術を習得させた。<br>・全品目の栽培管理、作業を全学生が理解し、技術習得できるように実践指導した。<br><br>・新規品目としてトウガラシと茎ブロッコリーを栽培し、プロジェクト活動に取り組んだ。<br>・農業技術検定に向けた専門的知識に関する勉強会を3回実施したが、コロナの影響で試験が中止となった。 | A   | ・実習で身につけた技術を自ら考えてできるように指導していきたい。                |        |
|                   |               | ○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得<br>・一連の作業が機械操作ができる学生の割合 100%以上                        | ・農業機械の操作指導<br>・農業機械の作業点検方法の指導                                    | ・トラクター、防除機、定植機、管理機等の操作を練習させ、全学生が全ての農機の基本操作ができるようになった。<br>・農業機械の点検を実施し、オイル交換等の基本的な管理ができるようになった。  | A   |   |        |
| 2<br>高い技術力や経営力の習得 | ・高い技術力や経営力の習得 | <b>【施設野菜】</b><br>○IoT機器を活用した栽培管理技術の習得<br>・IoT機器が活用できる学生の育成 100%            | ・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認<br>・IoT機器を活用した環境管理の指導                          | ・専攻の早朝実習において毎朝の植物観察と作業日誌への記録させ、生育予測に基づいた管理の意識付けを指導実施した。<br>・環境測定機器の取り扱い方法及び設定方法、活用方法は、実習時間内に、講義と実機の操作によって習得させた。<br>・特に、光、温度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通して指導を実施した。<br>・また、週間天気予報の活用と環境設定の指導を強化し、知識の習得を図った。   | A   | ・新技術の修得のために、基本技術や知識の早期習得と環境制御に基づいた栽培管理の実践に取り組む。 |        |
|                   |               | ○経営能力の向上<br>・担当する品目の所得の把握ができる 100%   | ・作型毎の作付け計画の作成指導<br><br>・経営記帳の指導                                  | ・プロジェクト課題設計検討や課題の進捗状況の把握し、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施した。<br>・プロジェクトで取り組む作物での収量・品質・経費等の記録を指導し、全員に実行させた。<br>・2年生全員にプロジェクト課題において、所得を算出させ、卒業論文で取りまとめた。  | A   |   |        |
|                   |               | ○GAPの実践を通じたよりよい施設園芸の実践<br>・GAPを実践できる学生の育成 100%                             | ・施設野菜の実習におけるGAPの実践   | ・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導を行った。<br>・使用資材・機材の整理・整頓を週末には行った。<br>・使用資材の使用履歴の記帳を指導し、全員で取り組んだ。  | A   |   |        |



| 目標                | 評価項目 | 令和2年度目標  | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果   | 達成度 | 次年度の課題と改善策                                    | 評価コメント |
|-------------------|------|--|--|---|-----|---|--------|
| 2<br>高い技術力や経営力の習得 |      | ○経営能力の向上<br>果樹経営特性を理解<br>到達した学生の割合<br>100%           | ・果樹経営特性の理解   | ・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳を指導した。<br>・市況や統計資料等と記帳結果と比較して、担当圃場での問題点を整理し改善策を検討させた。<br>・プロジェクト課題等においては、試験結果を検証し経営改善点を整理させた。                        | A   |   |        |
|                   |      | <b>【畜産】</b><br>○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得<br>到達した学生の割合<br>100% | ・家畜の性周期、発情兆候の理解<br><br>・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上                     | ・繁殖牛発情観察記録表への記入、妊娠期間の調査、家畜人工授精を指導し、技術向上に努めた。<br>また、畜産試験場での実習を 30回／年以上した。<br><br>・1年生においては、家畜人工授精講習会を受講のために基本技術の習得に努めた。<br><br>・繁殖生理の学習と繁殖技術の習得にさせた。 | A   |   |        |
|                   |      | ○家畜栄養の学習<br>到達した学生の割合<br>100%                        | ・飼料給与技術の習得<br><br>・各畜種(乳牛、和牛、豚)の飼料給与技術の習得                      | ・飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実践、と発育状況把握のための体測を毎月実施した。<br>・子牛の発育状況確認のための子牛セリへの参加した。<br>・畜産試験場での実習を30回／年以上実施した。  | A   | ・家畜人工授精講習会が7月に開催されるため、特に経験の少ない1年生の基本技術を習得させる。 |        |
|                   |      | ○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習<br>到達した学生の割合<br>100%               | ・糞尿の堆肥化処理技術の習得<br><br>・堆肥の散布技術の習得<br><br>・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習  | ・堆肥舎での関連作業機械を操作した堆肥化処理の作業実習を実施した。<br><br>・堆肥化に伴う堆肥の温度変化観察を実施した。<br><br>・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業実習を実施した。                                       | A   |   |        |
|                   |      | ○飼料作物栽培の学習<br>到達した学生の割合<br>100%                      | ・一般的な飼料作物生産技術の習得<br>・作業機械操作技術の向上<br><br>・トウモロコシ等様々な飼料作物の栽培技術習得 | ・夏作、冬作の飼料作物栽培を作業機械を用いて耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する実習を実施した。<br>また、飼料作物生育状況の観察の実施した。  | A   | ・夏作の品種や播種、収穫時期について検討する。                       |        |

| 目標 | 評価項目         | 令和2年度目標  | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果  | 達成度 | 次年度の課題と改善策   | 評価コメント |
|----|--------------|--|--|--|-----|--|--------|
| 2  | 高い技術力や経営力の習得 | <b>【農産加工】</b><br>○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得<br>・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※  | ○漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施<br><br>(1年生)<br>・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施<br><br>(2年生)<br>・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施 | ○穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得が出来た。<br>○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得が出来た。<br><br>(1年、専科)<br>・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識を習得した。<br>・加工演習は一次加工を中心に実施し、10品目を加工製造。<br>・シーラー機やカップシール機等の基本的な機材操作習得。<br><br>(2年)<br>・レトルトコンポート等のより高度な2次加工技術の演習を実施し、15品目を加工製造した。   | A   | ・売れる商品づくりに向けた技術習得の向上を目指す。<br><br>・より安心、安全な商品づくりを目指すため、食品衛生の管理方法等を充実強化する。 |        |
|    |              | ○学生発案によるオリジナル商品の開発、定番化<br>1商品以上  | ・農産加工研究会(学生の自主組織)への指導<br><br>・直売での販売動向の把握及び分析  | ○農産加工研究会による試作研究<br>学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究の指導をした。<br>・加工技術支援及び消費者意向調査方法などについて指導した。<br>・学生発案によるオリジナル商品化に向け技術指導した。結果、直売等において45品目の販売を行った。<br>・直売での販売動向を把握するため、製造・販売記録の記帳指導をおこなった。  | A   | ・農大オリジナル商品の開発と定番化を目指す。   |        |
|    |              | <b>【資格等の取得向上】</b><br>○カリキュラムの中で必要な資格の合格率100%<br><br>※大型特殊免許、けん引免許、家畜人工授精師等<br>○選択性の資格の合格率 50%以上<br><br>※農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、ボイラー、フォークリフト、狩猟免許等 | ○研修の充実<br><br>・受講期間中、合格レベルに達しない者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施<br><br>・資格や免許に対応した特別講義の開催<br>・小テストの実施及び解説<br>・過去問題を活用した指導  | ○必須の免許・資格の取得 (合格率98%)<br>・農耕用大特免許 51名<br>・農耕用けん引免許 30名<br>・家畜人工授精師 5名<br><br>○選択性の免許・資格の取得状況 (合格率73%)<br>・農業技術検定2級 2名<br>・農業技術検定3級 28名<br>・危険物取扱者 3名<br>・毒劇物取扱者 3名<br>・フォークリフト 29名<br>・小型車両系建設機械 12名<br>・ボイラー 6名<br>・狩猟免許 1名<br>・家畜商 8名<br><br>・特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施した。 | B   | ○引き続き、必須の免許・資格の所得向上を目指す。   |        |

| 目標              | 評価項目                   | 令和2年度目標   | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果   | 達成度 | 次年度の課題と改善策                               | 評価コメント |
|-----------------|------------------------|---|--|---|-----|--|--------|
| 3<br>全ての学生の進路決定 | ・就農・就職決定率              | 就農・就職率100%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○就農・就職指導の強化</li> <li>・進路指導を行う専任職員の配置</li> <li>・社会人としてのキャリア教育の実践 5回</li> <li>・農業次世代人材投資事業(準備型)の支援</li> <li>・先進農家(農業法人を含む)視察研修の実施 3回</li> <li>・若手農業者との意見交換会の開催 2回</li> <li>・農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施 10回</li> <li>・ハローワークとの連携 5回</li> <li>・求人情報の提供 随時</li> <li>・インターンシップの積極的推進</li> <li>・1年生からの進路指導の強化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○就農・就職決定率は、100%であった。</li> <li>・進路指導専任職員(会計年度職員)を1名配置した。</li> <li>・キャリアプランニングの講義を、ジョブカフェ佐賀と連携して、1年生2回、2年生6回行った。</li> <li>・先進農家(農業法人を含む)、県試験研究機関への専攻別の視察研修を4回実施した。</li> <li>・伊万里地区の若手農業者との意見交換会に1回参加した。</li> <li>・求人情報の提供が延べ68社からあり、随時学生に情報提供した。</li> <li>・農業大学校での会社説明会を3回開催した。また会社見学会に2回参加した。</li> <li>・ハローワークと就職に関する情報交換を3回行った。</li> </ul> | A   | ○引き続き、将来目標を早めに設定させるように、早期に就農・就職指導等を実施する。 |        |
| 4<br>農業者研修の充実   | ・大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講待機者の削減</li> <li>・免許合格率:95%以上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講待機の状況に併せた研修回数数の設定</li> <li>・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整</li> <li>・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農耕用けん引を6回、大型特殊(農耕用)を17回実施予定だったが、コロナのためけん引5回、大型特殊16回を実施した。</li> <li>・市町と受講待機者の情報を共有化した。</li> <li>・年度当初に、県機関等に受講生を募集し、直前にキャンセルがあった時に定員を確保できるよう調整を行った。</li> <li>・模範操作の動画や機械模型の作成・活用し、受講生が理解できるよう努めた。</li> <li>・実際に指導員が実演したり、実習の指導方法を工夫した。</li> <li>・免許合格率は大特99%、けん引95%だった。</li> </ul>  | A   | ・現在の待機者数を踏まえ、R3年度は大特研修を1回増加する。           |        |



| 目標            | 評価項目                   | 令和2年度目標             | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果   | 達成度 | 次年度の課題と改善策  | 評価コメント |
|---------------|------------------------|---------------------|--|---|-----|---|--------|
|               | (さが農業経営塾)<br><br>受講者数  | ・受講者数(定員の確保)<br>10名 | ・農業士、青年農業士、女性農業者、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者、市町、JA青年部等への周知      | ・経営塾開催のパンフレットを作成し、農業士、青年農業士、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の塾生に送付して受講者を募った。<br>・JAや各関係機関へもパンフレットを送付し、経営塾開催の周知を図った。<br>・プレスリリース、HPへの掲載も行い、新聞記事としても扱われた結果、10名の受講生を確保できた。<br>・併せて、農業サポート人材として、6名の普及指導員も受講した。  | A   | ・普及指導員の受講を継続し、受講生への更なるバックアップ体制強化を図る。<br><br>・初めてオンラインでの講座開催に取り組み、時間と場所の制約を受けない体制とした。今後さらにオンラインのメリットを活かしていく。 |        |
|               |                        | ・受講者の満足度<br>80%以上   | ・オリエンテーション(講座前に実施)<br><br>・受講者へのアンケート調査の実施<br><br>・運営委託業者と調整 | ・全11回の講座、各終了時にアンケート調査を実施し、講座運営と内容に関する受講生の意向把握に努めた。<br>・調査の結果、80%以上の満足度であった。   |     |   |        |
| 4<br>農業者研修の充実 | (農産加工支援研修)<br><br>受講者数 | ・受講者数の確保<br>2講座 15名 | ・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知   | ・関係機関に対し、研修成果や研修内容等について具体的な事例を紹介し、農業者等への啓発を行った。<br><br>・基礎研修 11名<br>・応用研修 7名  | A   | 食品衛生法改正に伴い、食品衛生の管理方法等の支援を行う。  |        |
|               |                        | 受講生の理解度80%以上        | ・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施                                 | ○食品衛生、加工技術、歩留まり計算、原価計算、包装技術、ラベル作成等、農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施した。<br>○県内での先進事例について、視察研修を実施。<br>○HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。<br>○毎回、受講後のアンケート調査を実施し、進捗状況を把握、理解度をチェックした。その結果、講座内容を概ね理解した受講生は80%以上と目標をクリアできた。 | A   |   |        |

| 目標 | 評価項目                                   | 令和2年度目標                            | 目標達成のための方策   | 具体的取組及び結果   | 達成度 | 次年度の課題と改善策  | 評価コメント |
|----|--|------------------------------------|--|---|-----|---|--------|
|    |  | ・受講者1人(組織)<br>商品化を目指した1<br>品目以上の試作 | ・商品づくりと試作研究への指導<br>・新商品開発能力を高める試作研究への指導  | ○商品化につながる試作品づくり及び新製品の開発<br>能力のための知識・技術の指導を行った。<br><br>○個別計画に沿って、試作研究演習を個別で実施、ま<br>た、試作研究指導を実施し、技術習得ができた。<br>・受講者全員、1品目以上の試作品を製造した。<br><br>○関係機関と連携し、商品化に向けた新商品開発を<br>行うための評価及び検討会を実施した。<br>その後、受講生にフィードバックしたので、今後の更なる<br>商品開発の参考になると考える。<br><br>○農産加工を取り入れ実勢している先進事例につい<br>て、視察研修を実施。<br><br>○HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知<br>識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強<br>化研修を実施した。  | A   | 商品化を目指した試作研究の<br>指導・支援を行う。  |        |
|    | 農業者組織(農業青年ク<br>ラブ、青年農業士、農業<br>士)活動の活性化 | ・研修に対する満足度<br>80%以上                | ○農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の<br>実施<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>○参加後の聞き取り調査等の実施 | ○各種研修等の開催<br>・コロナ禍による影響により役員理事会、三役会、各部<br>会等ZOOMやLINEも含めて実施した(毎月1回以<br>上)<br>・各種研修会等へ、非加入クラブ組織(伊万里4Hク<br>ラブ)へも参加を呼びかけた。<br>・農業青年会議を1回開催した(12月、参加者;26<br>名)<br>・さが農業力向上セミナーを2回開催した(7月、参加<br>者;53名)(12月、参加者36名)<br>・九州農政局佐賀県拠点における意見交換会への<br>参加を呼びかけた(1月、参加者;5名)<br>・「へその町ファーマーズマーケット」への参加を呼び<br>かけている(3月下旬)。<br>・冬季のつどいは、コロナの影響で開催出来なかった。<br><br>○九州沖縄地区行事の開催<br>・役員会を開催した(5月、2名)<br>・リーダー研修会への参加を促した(1月、3名)<br>・研修会に参加したクラブ員の8割以上が満足だ<br>ったと回答した。 | A   | ・未加入組織への加入呼びか<br>け・促進を行い、県内全体のク<br>ラブ活動の活性化を図る。<br><br>・コロナ禍に対応したやり方<br>によって、研修終了後の満足度の<br>維持向上を図る。 |        |

| 目標 | 評価項目                           | 令和2年度目標                          | 目標達成のための方策                                       | 具体的取組及び結果  | 達成度 | 次年度の課題と改善策             | 評価コメント |
|----|--------------------------------|----------------------------------|--|--|-----|------------------------|--------|
|    | 農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化 | ・研修に対する満足度<br>やや満足以上の割合<br>80%以上 | ○青年農業士を対象とした各種研修の開催                              | ○各種研修会<br>・新型コロナの影響を考慮し、農業士との合同研修会を中止した。その代わりに青年農業士全体会を開催した(11月、青年農業士6名出席)<br>・新型コロナの影響を考慮し、先進地事例調査、県外研修を中止した。   | B   | 新型コロナの発生に対応した研修会を実施する。 |        |
|    |                                |                                  | ○参加者へのアンケート調査実施                                  | ○研修会を中止したことから、アンケート調査を実施していない。   |     |                        |        |
|    | 農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化 | ・研修に対する満足度<br>やや満足以上の割合80%以上     | ○農業士を対象とした各種会議・研修会の開催<br><br>○さが農業女子サミット実行委員会の開催 | ○各種会議の開催<br>・役員会議 2回(11月、2月)<br>・佐賀県内JA代表者との意見交換会 1回(11月)<br>・県農政関係課長との意見交換会 1回(2月)<br><br>○各種研修会の開催<br>・青年農業士との合同研修会 1回 ← コロナ禍により中止<br>・九州・沖縄農業士研修会 1回(大分県) ← コロナ禍により中止<br>・さが農業女子サミット(女性全体研修会) 1回(1月) ← コロナ対策として時短になったものの100名が参集して開催<br><br>○各部会活動の実施(7部会)<br>・野菜(11月 13名)<br>・農業農村活性化(11月 9名)<br>・農産、花き、畜産、果樹(3月) | B   | ・新型コロナ禍に対応した研修会を実施する。  |        |
|    |                                |                                  | ○参加者へのアンケート調査実施                                  | ○メインの研修会が中止となり、アンケート調査を実施せず。   |     |                        |        |

※到達した学生の割合とは、農業実習の評価基準における技術評点80~62点(100点満点で)以上の割合を80%以上とする